

気象キャスターが解説!
連載 天気のカタ 第11回
若葉の季節、
でも天気の変化に注意!
気象キャスターネットワーク



風薫る五月、新緑を吹き渡る風は清々しく、1年の中でも最も過ごしやすい季節です。しかし、同時に季節の変わり目で気温の変化が大きい時期です。移動性高気圧に覆われ穏やかに晴れた朝は、地表の熱が奪われる放射冷却により気温が一段と下がり霜が降りることもあります。春の晩霜は農作物に著しい被害を与えます。また、低気圧が発達しながら日本海を通過することで広い範囲で天気が急激に変わり、暴風やしけとなることもあります。さらに上空には冬の名残りの冷たい空気がまだ入ることが多い一方で、地上付近は暖かくなっているため、大気の状態が不安定となり、激しい雷雨や突風とともにひょうが降ることもあります。

おそしも 遅霜の被害

「遅霜」は、晩春から初夏にかけて降りる季節外れの霜を言います。「八十八夜の別れ霜」という言葉があります。立春から数えて88日目にあたる八十八夜(今年5月2日)は霜の降りる時期が終わる頃です。しかし、本州の中部から北の内陸や北海道では平年の終霜日は5月中旬以降の所が多くなっています。「九十九夜の泣き霜」という言葉もあり、別れ霜の後に霜が降り被害に泣

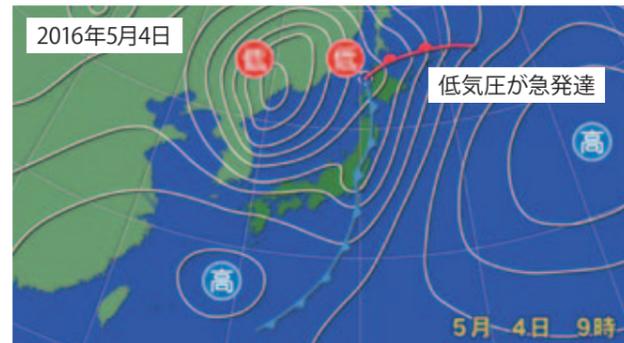


2018年3月24日盛岡市で撮影した霜

くことがあります。晩霜で農作物に被害が出るおそれがある場合は「霜注意報」が全国各地で発表されます。霜が降りやすい気象条件は晴れて風が穏やかで4度以下に下がる時です。

メイストームで荒れた天気

4月後半から5月頃、「メイストーム」と呼ばれる強風が吹くことがあります。春は南から暖かな空気が流れ込む一方で、上空には冷たい空気も南下するため、低気圧が急速に発達しやすくなります。日本海で低気圧が台風並みに発達し広い範囲で天気が急激に変化します。海や山は大荒れになり、遭難事故が相次いで起きます。低気圧の中心気圧が1日に約24ヘクトパスカル以上も下降する低気圧を「爆弾低気圧」と呼ぶこともあります。2016年5月4日、日本海を発達した低気圧が進み、荒れた天気になりました。松江市では最大瞬間風速34.6メートルを観測し、5月としては観測史上1位の記録になりました。東京都心でも最大瞬間風速21.6メートルを観測。メイストームは台風より広い範囲で強風が吹くおそれがあります。5月の連休の頃は山菜採りや潮干狩りなどで山や海へ出かける人も増えてきますが、春の嵐には注意が必要です。フェーン現象で気温が急上昇し山火事が起きたり、山では融雪洪水が発生するおそれがあります。

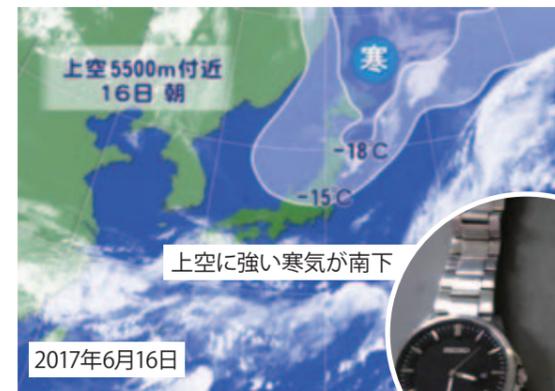


上空の寒気で「大気の状態が不安定」に

上空に寒気が入りやすい時期です。「寒冷渦」と呼ばれる、上空に寒気を伴った低気圧もやってきますが、地面付近は強い日射で熱せられます。その温度差を減らすために暖かい空気は上へと昇り、冷たい空気は下に下りようになり対流が起きます。つまり大気の状態が不安定になるのです。晴れていても急に天気が変わり、積乱雲が発達し、急な強い雷雨や突風、竜巻やひょうなどの激しい現象が起きる危険があります。

ひょうの季節

2017年6月16日、上空の寒冷渦が日本を通過しました。北日本の上空5500メートル付近で氷点下18度以下、東日本で氷点下15度以下の強い寒気が流れ込みました。東北や関東を中心に大気の状態が不安定になり、局地的に積乱雲が発達し激しい雷雨がありました。宇都宮市では大粒のひょうが路面を激しくたたきました。宇都宮市の気象台では直径2センチのひょうを観測。気象台でこれだけの大きなひょうを観測するのは珍しいことです。東京の八王子市でも大量のひょうが降り、川のように流れている様子が見られました。ひょうは氷の粒で直径5ミリ以上のものを言います。冬は日本海側で多いのですが、太平洋側では春から初夏に多くなります。真夏は地上の気温が高いため雨になりますが、5月から6月はまだ気温が低いので、氷のまま落ちてくることもあるのです。農作物が生育し始める時期なので果樹や野菜などに大きな被害が出る可能性があります。

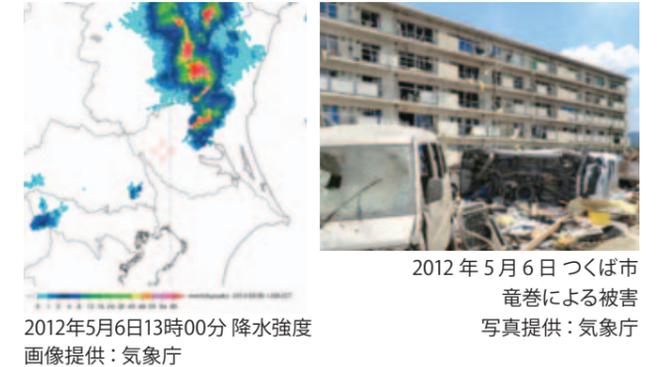


2017年6月16日 宇都宮市に降ったひょう
写真提供: 田代大輔氏

竜巻などの激しい突風も

2012年5月6日、上空5500メートルに氷点下21度以下の強い寒気が南下。地上は強い日射で気温が上昇したため、西日本から東北地方にかけて大気の状態が非

常に不安定になり、急速に積乱雲が発達しました。茨城、栃木、福島県では同時に3つの竜巻が発生。茨城県つくば市や常総市で発生した竜巻は*F3で日本最大級の竜巻になりました。死者1名の他、家屋の被害や電柱の倒壊など甚大な災害をもたらされました。竜巻は全国で発生する可能性がありますが、特に関東平野や太平洋沿岸などで多くなっています。



※F3〔藤田(F)スケール〕とは

1971年にシカゴ大学の藤田哲也博士により、竜巻やダウンバーストなどの突風により発生した被害の状況から、風速を大まかに推定する藤田スケール(Fスケール)F0~F5が考案されました。被害が大きいほどFの値が大きくなり、風速が大きかったことを示します。

「大気の状態が不安定」と聞いたら注意警戒を!

激しい現象が起きる可能性を伝える時のキーワードは「大気の状態が不安定」。真っ黒な雲が見えたり、雷の音が聞こえたり、急に冷たい風が吹いてきたら積乱雲が近づいている前兆です。注意報や警報などの気象情報を確認し荒れた天気になりそうな時は少しでも早く頑丈な鉄筋の建物の中に避難して下さい。若葉の気持ちのいい季節ですが、実は天気の急変に注意が必要なのです。

大隅 智子

NHK盛岡放送局「おぼんですいわて」気象キャスター
気象予報士・防災士
広島市生まれ。
フェリス学院大学文学部英文学科卒業。
大学卒業後、NHK松山放送局やNHK-BSニュースなどでキャスターを担当。2007年に気象予報士を取得した後、NHK名古屋放送局や広島テレビで9年間、気象キャスターを務める。2017年春からNHK盛岡放送局へ。
小学校で環境授業をしたり、防災や地球温暖化などの講演を行う。
趣味は「ヨガ」。

